

下水道事業の投資・財政計画 (中間報告)

上下水道局

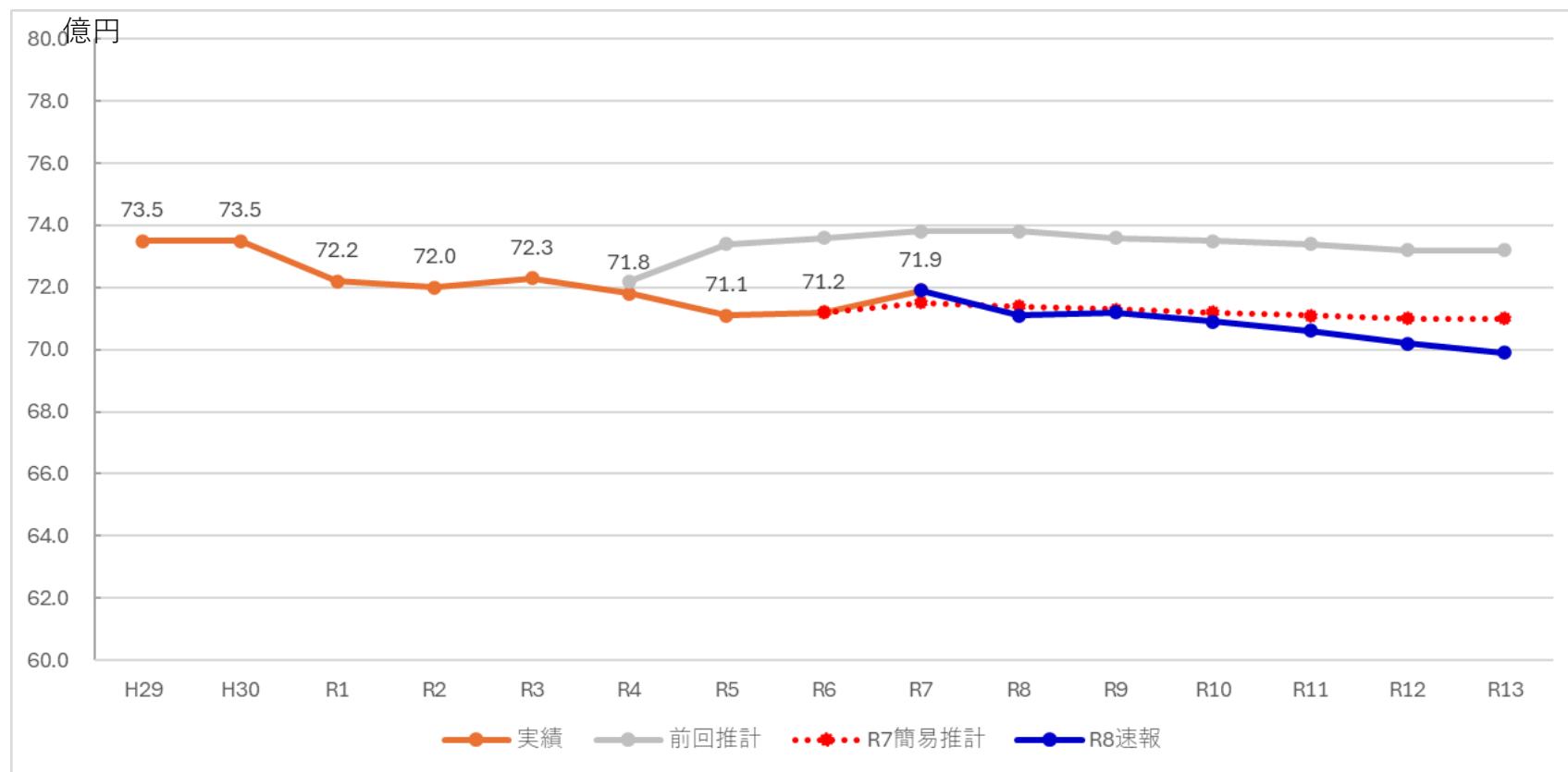
- ・現在、直近の経済情勢（労務単価・物価上昇等）を反映した「投資・財政計画」を策定中です。今回は速報値をもって中間報告します。
- ・現在の経営戦略の投資・財政計画は令和4年度に改定したもので、昨年度は令和4～6年度決算額をベースに簡易推計を行い、令和7年12月に審議会に報告しました。
- ・この度、「投資・財政計画（令和4年度改定）」、「簡易推計（令和7年12月）」「投資・財政計画（中間報告）」の比較・検証を行いました。

1 投資・財政計画（中間報告）による今後の見通し

次ページ以降のグラフについての説明

- 平成29年度以降の決算額（実績）
- 令和4年度（前回）に改定作業を実施した経営戦略（計画期間：令和5年度～令和14年度）の投資・財政計画による推計値
- 令和4～6年度の決算額に基づく簡易推計値
- 令和8年度 投資・財政計画中間報告（速報値）

2 下水道使用料の状況



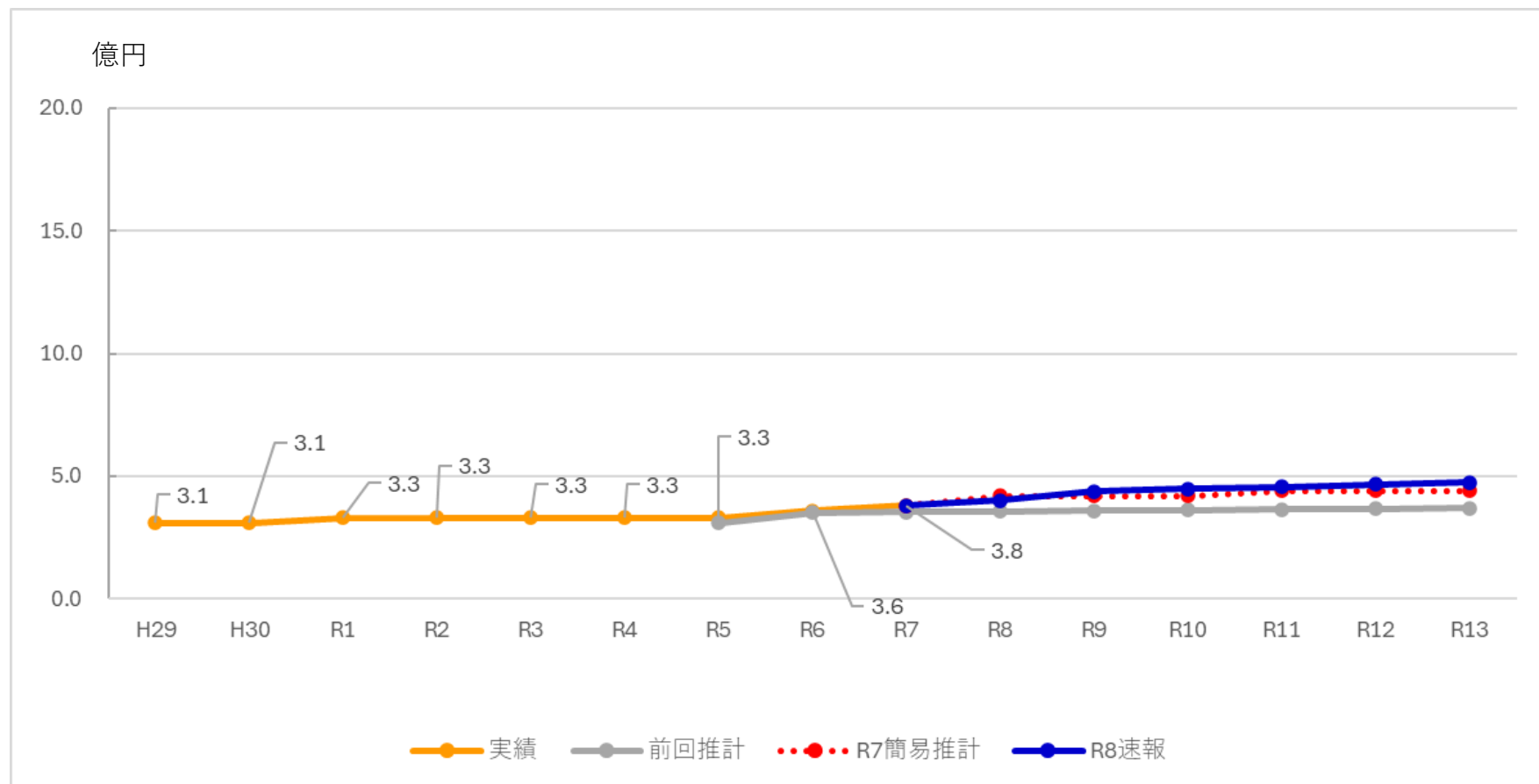
【速報値と前回推計との違い】

- ・ 前回推計では、コロナ禍による業務用に係る使用料の落ち込みが令和5年度以降に平成30年度程度の水準まで回復する見込みでしたが、実際には回復せず横ばいが続いたことから、速報値との差が生じました。

【速報値と簡易推計との違い】

- ・ 簡易推計は令和6年度実績と前回推計の令和6年度との差を基に推計しました。今回の水洗化人口の見込が前回推計より減少したことから、速報値の使用料見込が下回っています。

3 東部浄化センター 維持管理委託料（収益的支出）の状況



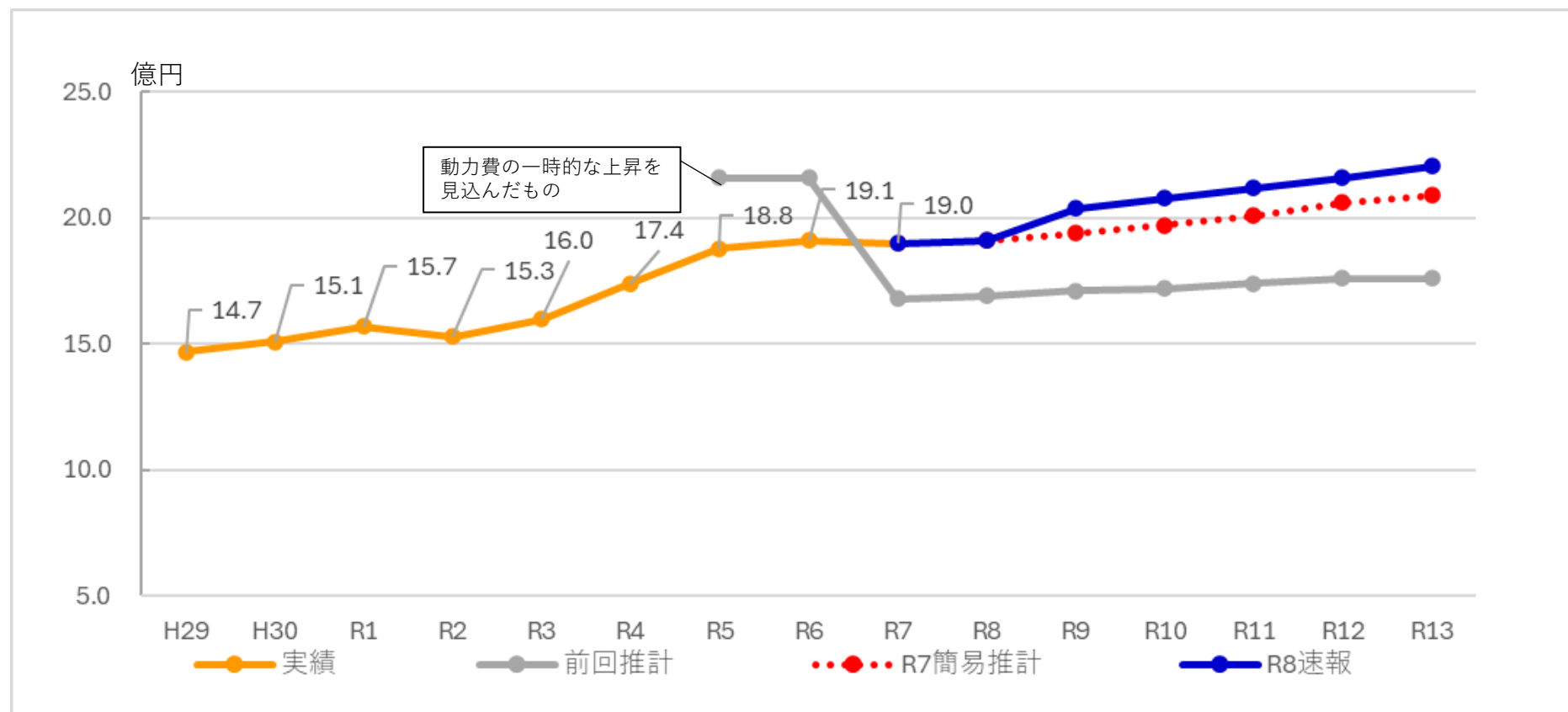
【速報値と前回推計との違い】

- ・速報値では物価上昇（2％）を見込んだこと等により、前回推計値と比べ増加しています。

【速報値と簡易推計との違い】

- ・簡易推計値と速報値は、ほぼ同様の結果となりました。

4 流域下水道 維持管理・汚泥処理負担金（収益的支出）の状況



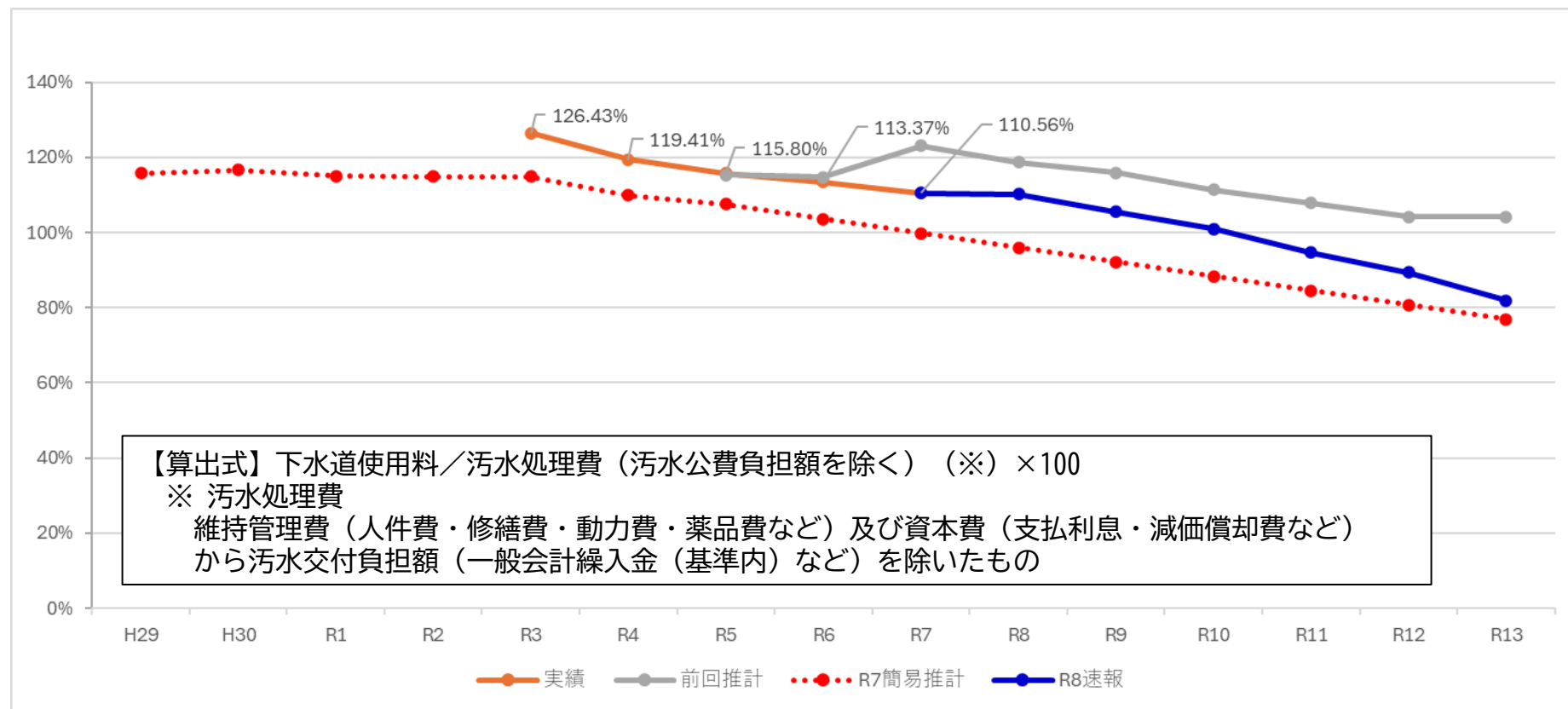
【速報値と前回推計との違い】

- ・ 前回推計では、令和5年度および6年度において、県が広域で運営する污水处理場の動力費について一時的な上昇後、令和7年度に減少し、令和7年度以後の物価上昇率は0.7%と見込みました。

【速報値と簡易推計との違い】

- ・ 簡易推計は、令和6年度の実績に対し物価上昇率を0.7%と見込みました。速報値では物価上昇率を2%と見込んだため、簡易推計値よりも高くなっています。

5 経費回収率の状況



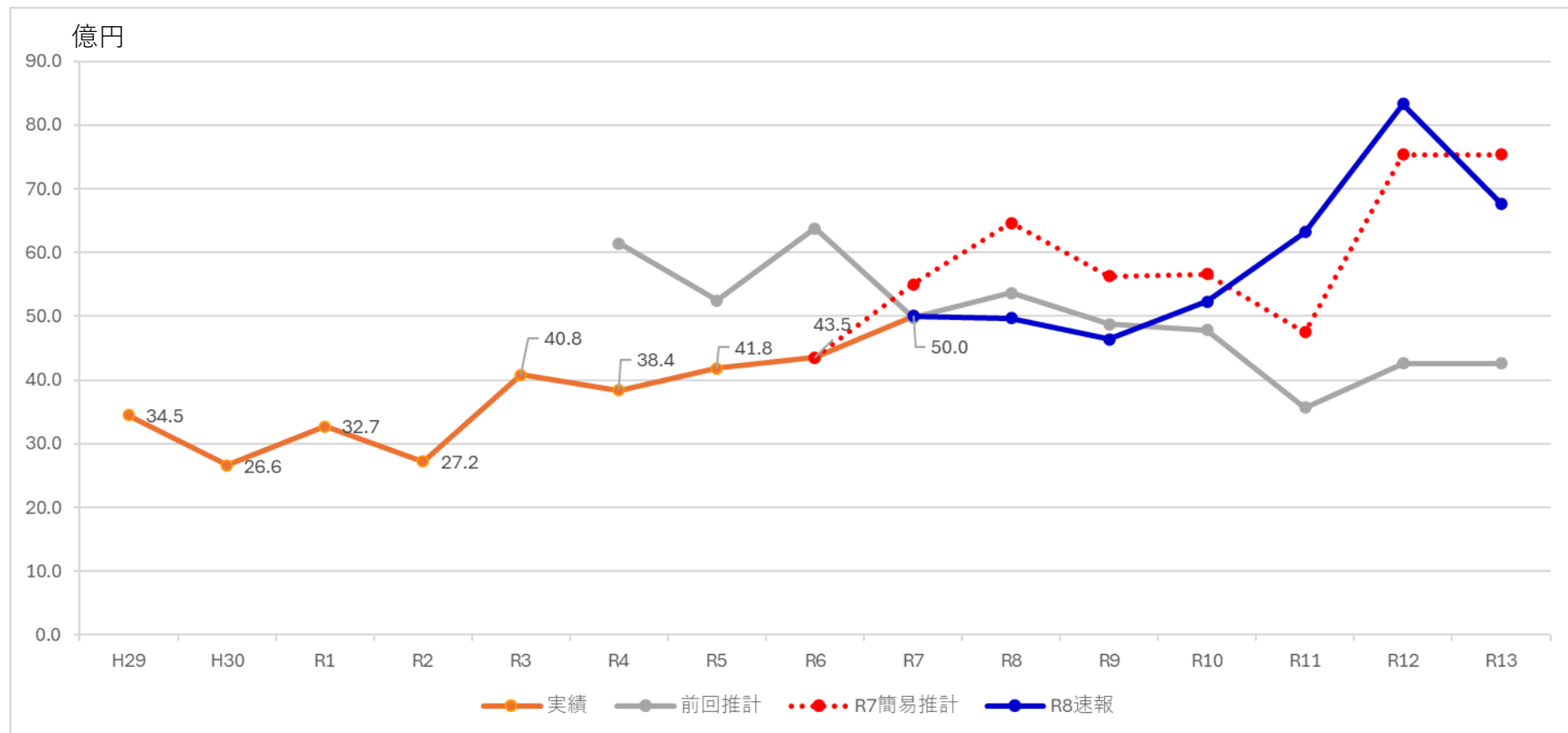
【速報値と前回推計との違い】

- ・速報値は使用料の減少（3 ページ「R 8 速報」を参照）と物価上昇（2 %）による費用の増加により、前回推計と比べ経費回収率が低下しています。

【速報値と簡易推計との違い】

- ・簡易推計は、令和 4 ～ 6 年度の経費回収率の下降実績を単純に反映させましたが、速報値は、経費回収率の算定方法を修正した上で、上記により算定した結果、グラフのとおりとなりました。

6 建設改良費（資本的支出）の状況



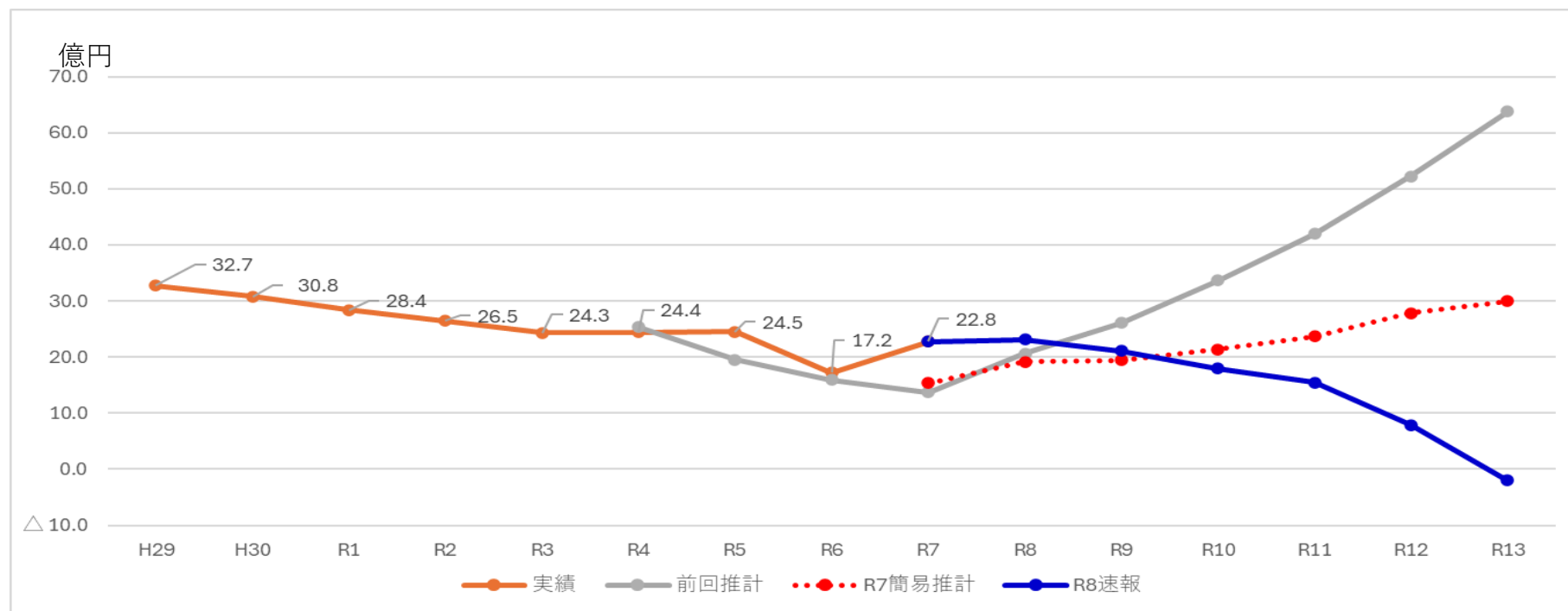
【速報値と前回推計との違い】

- ・ 前回推計では物価上昇率を0.7%で見込んでいたことと、令和12年度から予定している東部浄化センターの消化設備の新設工事費用を計上していないことから、建設改良費が減少しています。

【速報値と簡易推計との違い】

- ・ 施設整備計画の見直しに伴う投資額の変更により、簡易推計と速報値に差が生じています。

7 内部留保資金の状況



【速報値と前回推計及び簡易推計との違い】

- ①下水道使用料の減少と物価・利率の上昇による費用増加で、前回推計や簡易推計と比べ利益が減少し、内部留保資金も減少する見込みです。【9ページ図①参照】
- ②前回推計と簡易推計では、企業債の償還期間を30年として推計しておりましたが、将来の利息負担の軽減を考慮し、速報値は、企業債の償還期間を10年で設定しています。そのため、償還期間を短縮すると利息負担は軽減されますが、1年あたりの償還額が増加するため、内部留保資金は減少します。【9ページ図②参照】

今後、50年シミュレーションにおいて、償還期間の長短が支払利息と内部留保資金に与える影響を長期的に精査し、長期的な視点から償還期間について検討してまいります。

《図解》速報値と前回推計及び簡易推計との違い

